

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

1. MariaDB(server.cnf) 設定値の変更箇所リスト

以下の設定はMariaDB10.4、かつ、ITAシステムサーバ※1 の最小スペック（CPU：2コア／メモリ：4GB）にて動作するように設計されています。

※1 ITAシステムサーバ … Ansibleサーバなど連携ドライバのサーバを別構成にしたITA基本構成

No.	必須/参考	初期値	ITAインストール後	備考
1	必須	OFF	explicit_defaults_for_timestamp = true	
2	必須	latin1	character-set-server = utf8	
3	必須	REPEATABLE-READ	transaction-isolation=READ-COMMITTED	トランザクションの分離レベルを指定。 「READ-COMMITTED」は多くのデータベースシステム（Oracle、PostgreSQL、SQL Server）でデフォルトの分離レベル。 MariaDBのデフォルトは「REPEATABLE-READ」であるがITAの利用方針と合わないため変更する必要がある。
4	参考	128MB	innodb_buffer_pool_size = 512MB	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
5	参考	16MB	innodb_log_buffer_size=64M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
6	参考	48MB	innodb_log_file_size=256M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
7	参考	0	min_examined_row_limit=100	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
8	参考	256KB	join_buffer_size=128M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
9	参考	1M	query_cache_size=512M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
10	参考	OFF	query_cache_type=1	
11	参考	16MB	max_heap_table_size=64M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
12	参考	16MB	tmp_table_size=64M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
13	参考	256KB	mrr_buffer_size=64M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
14	参考	151	max_connections=256	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

2. PHP(PHP.ini) 設定値の変更箇所リスト

以下の設定は、ITAシステムサーバ※1 の最小スペック（CPU：2コア／メモリ：4GB）にて動作するように設計されています。

※1 ITAシステムサーバ … Ansibleサーバなど連携ドライバのサーバを別構成にしたITA基本構成

No.	必須/参考	初期値	ITAインストール後	備考
1	参考	output_buffering = 4096	output_buffering = 8192	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
2	参考	expose_php = On	expose_php = Off	PHPバージョンを隠す場合に設定を変更。
3	参考	max_execution_time = 30	max_execution_time = 600	ITA利用時にタイムアウト等発生の際はチューニングを検討。
4	参考	max_input_time = 60	max_input_time = 600	ITA利用時にタイムアウト等発生の際はチューニングを検討。
5	参考	memory_limit = 128M	memory_limit = 512M	ITA利用時にPHPのメモリ不足が発生する場合はチューニングを検討。
6	参考	post_max_size = 8M	post_max_size = 4096M	ITA利用時に大容量の登録/更新ができない場合はチューニングを検討。
7	参考	upload_max_filesize = 2M	upload_max_filesize = 4096M	ITAにてファイルアップロードしたいサイズによりチューニングを検討。
8	参考	default_socket_timeout = 60	default_socket_timeout = 600	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
9	必須	;date.timezone =	date.timezone = "Asia/Tokyo"	
10	参考	pdo_mysql.cache_size = 2000	pdo_mysql.cache_size = 4000	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
11	必須	pdo_mysql.default_socket=	pdo_mysql.default_socket=/var/lib/mysql/mysql.sock	ITAはPHPからPDOを利用してMySQLに接続している。
12	参考	mysql.cache_size = 2000	mysql.cache_size = 4000	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
13	参考	mysql.connect_timeout = 60	mysql.connect_timeout = 600	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
14	必須	;session.save_path = "/tmp"	session.save_path = "/var/lib/php/session"	変更後のディレクトリは作成しておく必要がある。 デフォルト(/tmp)は非推奨。
15	必須	session.gc_divisor = 1000	session.gc_divisor = 1	PHPセッションファイルのGCを制御する。 左記の設定では、 session.gc_probability = 1
16	必須	session.gc_maxlifetime = 1440	session.gc_maxlifetime = 43200	のデフォルト値との組み合わせで、 12時間以上経過のセッションファイルを100%の確率でGCする。
17	必須	;mbstring.language = Japanese	mbstring.language = Japanese	※コメント解除
18	必須	;mbstring.internal_encoding =	mbstring.internal_encoding = UTF-8	※コメント解除+変更
19	必須	;mbstring.http_input =	mbstring.http_input = auto	※コメント解除+変更
20	必須	;mbstring.http_output =	mbstring.http_output = UTF-8	※コメント解除+変更
21	必須	;mbstring.encoding_translation = Off	mbstring.encoding_translation = Off	※コメント解除
22	必須	;mbstring.detect_order = auto	mbstring.detect_order = auto	※コメント解除
23	必須	;mbstring.substitute_character = none	mbstring.substitute_character = none	※コメント解除
24	必須	;openssl.cafile=	openssl.cafile=/etc/pki/tls/certs/exastro-it-automation-ja.crt	
25	必須	;openssl.capath=	openssl.capath=/etc/pki/tls/certs/exastro-it-automation-ja.crt	

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

3. Ansible (ansible.cfg) 設定変更箇所

No.	必須/参考	初期値	ITAインストール後	備考
1	必須	#inventory = /etc/ansible/hosts	inventory = /etc/ansible/hosts	※コメント解除
2	必須	#remote_tmp = ~/.ansible/tmp	remote_tmp = ~/.ansible/tmp	※コメント解除
3	必須	#forks = 5	forks = 5	※コメント解除
4	必須	#poll_interval = 15	poll_interval = 15	※コメント解除
5	必須	#sudo_user = root	sudo_user = root	※コメント解除
6	必須	#transport = smart	transport = smart	※コメント解除
7	必須	#module_lang = C	module_lang = C	※コメント解除
8	必須	#gathering = implicit	gathering = implicit	※コメント解除
9	必須	#host_key_checking = False	host_key_checking = False	※コメント解除
10	必須	#sudo_exe = sudo	sudo_exe = sudo	※コメント解除
11	必須	#timeout = 10	timeout = 10	※コメント解除
12	必須	#ansible_managed = Ansible managed	ansible_managed = Ansible managed	※コメント解除
13	必須	#deprecation_warnings = True	deprecation_warnings = False	※コメント解除 + 変更
14	必須	#action_plugins = /usr/share/ansible/plugins/action	action_plugins = /usr/share/ansible/plugins/action	※コメント解除
15	必須	#callback_plugins = /usr/share/ansible/plugins/callback	callback_plugins = /usr/share/ansible/plugins/callback	※コメント解除
16	必須	#connection_plugins = /usr/share/ansible/plugins/connection	connection_plugins = /usr/share/ansible/plugins/connection	※コメント解除
17	必須	#lookup_plugins = /usr/share/ansible/plugins/lookup	lookup_plugins = /usr/share/ansible/plugins/lookup	※コメント解除
18	必須	#vars_plugins = /usr/share/ansible/plugins/vars	vars_plugins = /usr/share/ansible/plugins/vars	※コメント解除
19	必須	#filter_plugins = /usr/share/ansible/plugins/filter	filter_plugins = /usr/share/ansible/plugins/filter	※コメント解除
20	必須	#fact_caching = memory	fact_caching = memory	※コメント解除
21	必須	#ssh_args = -C -o ControlMaster=auto -o ControlPersist=60s	ssh_args = -o ControlMaster=auto -o ControlPersist=60s -o StrictHostKeyChecking=no -o UserKnownHostsFile=/dev/null	※コメント解除 + 変更
22	必須	#accelerate_port = 5099	accelerate_port = 5099	※コメント解除
23	必須	#accelerate_timeout = 30	accelerate_timeout = 30	※コメント解除
24	必須	#accelerate_connect_timeout = 5.0	accelerate_connect_timeout = 5.0	※コメント解除
25	必須	#accelerate_daemon_timeout = 30	accelerate_daemon_timeout = 30	※コメント解除

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

4. ITA設定ファイル説明

No.	インストールシステム／連携ドライバ						設定ファイル名	説明
	ITA-BASE	Ansible	Cobbler	Open Stack	DSC	Ansible Tower		
1			○				(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupyardconf/cobbler_driver/path_DATA_RELAY_STRAGE_side_Cobbler	Cobblerサーバにて、データリレイストレージのルートパスを定義。
2	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupyardconf/ita_base/data_portability_running_limit.txt	データポータビリティの、インポート処理の実行時間制限値。 設定値を過ぎても実行中の処理は失敗と判定する。 単位は秒。デフォルトは300を指定。
3	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupyardconf/ita_base/hidden_menu_column_list.txt	代入値自動登録設定の項目表示から除外するカラムを記載する。 「#」 始まりの行は無視される。
4	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupyardconf/ita_env	バックヤード機能のログレベルとITAのルートディレクトリ(ita-root)を記載する。
5	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupyardconf/path_PHP_MODULE.txt	PHPモジュールのパスを記載。 例：/bin/php
6	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupyardconf/sysmail.list	システムメール(ky_mail)を利用する場合の設定を記載する。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
7		○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/ansible_vault_accesskey.txt	ansible-vaultコマンドのパスワード パスワードの変更は、 I T Aインストール直後のみ動作保証しています。 運用中に変更したり、パスワードが一致して環境へのメニューエクスポート・メニューインポートは動作保証していません。 例：「ANSIBLE-VAULT-PASSWORD」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
8	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/app_mail_from.txt	WebDBCoreからシステムメール(ky_mail)を利用する場合に、送信元アドレスになる。 ※00_loadtable.phpにアクション契機でメール送信する場合。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
9	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/app_msg_language.txt	ITAの使用言語を定義する。 日本語の場合は「ja_JP」を記載。
10	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/db_connection_string.txt	MySQLへの接続文字列。 例：「mysql:dbname=ITA_DB;host=localhost」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
11	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/db_model_string.txt	RDBの種別を定義。 0：OracleDB 1：MySQL/MariaDB
12	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/db_password.txt	MySQLの接続パスワード。 例：「ITA_PASSWD」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
13	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/db_username.txt	MySQLの接続ユーザ。 例：「ITA_USER」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
14	○	○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconf/path_ANSIBLE_MODULE.txt	ansibleコマンド(ansible-playbook/ansible-vault)がインストールされているパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/local/bin」を記載

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

4. ITA設定ファイル説明

No.	インストールシステム／連携ドライバ						設定ファイル名	説明
	ITA-BASE	Ansible	Cobbler	Open Stack	DSC	Ansible Tower		
15	○	○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/path_PHPspyc_Classes.txt	Spyscのパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/share/php/spyc-master」を記載
16		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/accesskey.txt	AnsibleサーバのRestAPIに使用するアクセスキー。 例：「AccessKeyId」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
17		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/secret_accesskey.txt	AnsibleサーバのRestAPIに使用する秘密キー。 例：「SecretAccessKey」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
18		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/ansible_playbook_watch_time.txt	AnsibleサーバのRestAPIでansible-playbookコマンドの稼働確認を行う周期を記載。(単位:ミリ秒) この周期で、最大3回まで稼働確認を行う。 例：「10」
19	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/admin_mail_addr.txt	システム管理者の連絡先(メールアドレス)を記載。 ファイルが無い場合 ⇒「管理者へ連絡」といったリンクが無くなる
20	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/ExternalAuthSettings.ini	ActiveDirectoryの連携先情報を記載。
21	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/L7Protocol.txt	ITA前段でHTTPS終端する場合など、クライアント→サーバのプロトコルが分からない場合に利用する。 ファイルが存在しておりプロトコル(HTTP/HTTPS)の記載がある場合 ⇒ファイルに記載されているプロトコル(HTTP or HTTPS)が採用される ファイルが無いまたはファイルが0バイトの場合 ⇒環境変数(\$_SERVER)からHTTP/HTTPSを判定する
22	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_HTML_AJAX.txt	HTML_AJAXのパスを記載。 例：/usr/share/pear/
23	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_PhpSpreadsheet.txt	Phpspreadsheetのパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/share/php」を記載

※1 base64エンコード後、rot13で変換した値